

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3891400024
法人名	医療法人 青峰会
事業所名	アクティブライフ三瓶
所在地	愛媛県西予市三瓶町朝立7番耕地84番地1
自己評価作成日	平成25年7月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成25年7月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

家庭の様な温もりのあるホームであるように、地域交流や人とのつながりを大切にし、自然と地域の方から声を掛けてもらえたり、気軽にホームに立ち寄ってもらえるようになってきました。ボランティアの受け入れや、地域行事への参加も継続しています。家事や趣味活動、畑仕事などを共にしながら、一人一人のニーズにあった支援が出来るように、日々努めております。事故防止や防災対策についても 話し合いの機会をつくり、安心して生活が送れるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●職員は、気持ちの良いあいさつを心がけ、ご家族との関係作りに取り組んでおられる。年1回の家族会時には、ご家族同士が「うちはこうしている」「お宅は？」等、食事をしながら意見や情報交換をされている。
●事業所では、毎年、利用者が年賀状を出せるよう支援を続けておられる。近くのコンビニへ買い物によく出かけておられ、店員の方と顔馴染みになっており、利用者の好みの品を知ってもらえている。遠方のご家族から贈り物があると、お礼の電話をかけ、ご本人からお礼を言えるよう支援されている。事業所の畑仕事は、利用者同士・利用者と職員の共通の話題で、利用者がこれまでの経験を発揮できる場にもなっている。
●事業所の「職員の気付きが大切」という考えから、ヒヤリハット・事故報告について、小さなことでも報告し、対策を考える取り組みをすすめておられ、成果も出ているようだ。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まれます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 アクティブライフ三瓶

(ユニット名) 1階・2階

記入者(管理者)

氏 名 藤田 智子

評価完了日 平成25 年 7月 1日

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価) 開設時に職員同士で考えた理念を掲げ、現在も日々の業務 において、その理念に沿った介護が継続出来るよう取り組ん でいます。	
			(外部評価) 事業所理念は、新任職員には詳しく説明し、日頃は、勤務 の中で初心に立ち戻るためのものとして位置付けておられ る。できる限り、職員を3名配置する勤務体制作りに努力し、 理念の実践に向けて取り組まれている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(自己評価) 地域とのつながりを大切に活動しています。地域ボランティ アの方々との交流も継続出来ています。9月には、恒例と なっている家族会も開催でき、地域のイベントにも参加させ て頂きました。 保育所・学校への雑巾やベルマーク等の 贈呈も継続できています。	
			(外部評価) 中学・高校生の職場体験の受け入れをされている。又、利用 者がていねいに縫った雑巾を、保育所や学校に贈ることを 続けておられ、お返しに鉢植えの花をいただく等、利用者 と子ども達や学校とのつながりを支援しておられる。地域の納 涼祭に出かけたり、秋祭りにはお練りや牛鬼が来てくれたり、 法人主催のふれあいバザーでは、利用者と職員で作った牛 乳パックの椅子を販売して、地域の方達と交流されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価) いつでも見学ができるように対応しています。職場体験やボ ランティア等でホームに訪問された方々にも、認知症に対 しての理解や支援して頂けるよう説明を行っています。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2か月毎に運営推進会議を実施しています。会議では、出席者との意見交換を行い、スタッフ会議において職員間で情報共有を行っています。会議に参加できなかった方々にも、日頃の生活状況等が伝わるように、お話ししたり掲示物や広報誌を作成し、いつでも見て頂けるように工夫しています。	
			(外部評価) 「家族会」や「クリスマス会」と併せて会議を開催する等して、ご家族が参加しやすいよう配慮をされている。地区の民生委員の方は熱心に参加してくださり、会議以外の日にも立ち寄って利用者とふれ合っている。	今後も、ご家族、市役所、地域の方の参加しやすい日時をすり合わせて参加を促し、地域のいろいろな人に事業所の活動を具体的に知ってもらい、理解者や協力者を広げていかれてほしい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 事故報告や感染症など、発生時には速やかに報告を行い、今後の取り組み等を説明しています。運営会議にも参加をお願いし、対策と一緒に考えてもらったり、情報提供していただくこともありました。	
			(外部評価) 年1回、三瓶地区の支所では、町民を対象に各介護施設の紹介を行う説明会が行われており、事業所も参加されている。説明会がきっかけとなり、サービスについての問い合わせがあったり、利用につながっている。介護相談員を受け入れた結果は、年1回、市全体で取りまとめられ報告会が行われており、事業所も参加してサービス向上の参考にされている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関の施錠は夜間以外はしないようにしています。また、拘束はしない事を徹底すると共に、安全面についても対策を継続しています。庭先の施錠については、防犯対策も必要だが、緊急時の搬送等が行いやすいようにした方が良いとの意見があり。施錠しないこととしました。	
			(外部評価) 法人の安全対策委員会は、2ヶ月毎に行われており、事業所からも参加して、系列事業所と意見交換等を行っている。事業所の「職員の気付きが大切」という考えから、ヒヤリハット・事故報告について、小さなことでも報告し、対策を考える取り組みをすすめておられ、成果も出ているようだ。玄関と2階の入口は、人の気配があるとチャイムが鳴るようになっている。ベッドから落ちる心配がある方には、ご本人が降りようとする時鈴が鳴るようにされていた。ご自宅がある方へ向かって歩かれる方には、ご家族と相談の上、一度帰宅してみようことを支援され、その後落ち着かれたということもあった。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 新聞等での事例報告や、職員間でお互い注意し合い、入浴の時などの全身状態の観察や、日々生活を共にし、言動の変化をみすごさないように注意して取り組んでいます。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在まで、ホームで利用されている方がいません。独居の方の入居や、身うちの方との関係性が変化する場合等に案内していきたいと思います。民生委員の方が事前に対処してくださる事例もありました。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には、時間をかけ説明をします。また、変更時には、文書を配布し、理解して頂けるよう説明をしております。入居後も安心して生活を続けて頂ける様に、面会の際等にご家族とお話する機会を設けています。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 毎月、その方に関しての状態や活動の様子等を、ご家族に報告させて頂いています。苦情受付ボックスや、面会用紙等を活用し、自由な意見・要望が伺えるようにしています。又その意見や要望にたいして、その都度速やかに対応するように心がけています。 (外部評価) 職員は、気持ちのいいあいさつを心がけ、ご家族との関係作りに取り組んでおられる。年1回の家族会時には、ご家族同士が、「うちはこうしている」「お宅は？」等、食事をしながら意見や情報交換をされている。来訪者には、面会用紙に記入してもらうようになっており、自由に何でも書けるような欄も設けておられる。毎月、個別に報告されたり、写真満載のホーム便りにて利用者の様子を報告されている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月のスタッフ会議や各自提案あれば、その都度報告されています。前向きな取り組みをし、職員の意識向上にも取り組んでいます。	
			(外部評価) 職員は、日々の中で利用者への言葉遣いやケアの工夫について等、意見やアイデアを出し合い、採り入れながら取り組みをすすめておられる。法人には、「介護福祉士の資格を取得すると正規職員になれる」という登用制度があり、職員が向上心を持って働けるための環境が整備されている。事業所では、認知症専門ケア加算をとるようになり、外・内部研修の年間計画を立て、職員のスキルアップにも力を入れておられた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 登用制度があり、各自が向上心を持ち取り組める環境となっています。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修の案内等、その都度報告しています。研修参加後には必ず報告会を行い、職員全員のレベルアップに努めています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 管理者は、運営会議やGH検討会等で情報を収集したり、職員研修等で、交流を行う機会があります。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 健康診断時に立ち会ったり、事前に顔合わせをすることにより、入居時の不安を解消できるようにしています。今までの生活の様子等を伺い、ホームでの生活に取り入れるようにしています。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が 困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾け ながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居時に要望を伺い、その後は面会やカンファレンスの際 に新たな問題・要望等がないかを確認しています。それにど う対応できるかを説明し、ご家族にしかできないことについて は協力を継続してもらいながら、実践結果をご報告する機会 もつくり、信頼関係づくりに努めています。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族 等が「その時」まず必要としている支援を見極 め、他のサービス利用も含めた対応に努めてい る	(自己評価) 要望や困っていることに耳を傾け、必要時には居宅支援事 業所や医療連携室等にも相談しながら、その方に必要な支 援について検討をしています。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におか ず、暮らしを共にする者同士の関係を築いてい る	(自己評価) ご本人が出来ることはして頂き、難しいことはお手伝いしま す。又、職員が苦手な事は教えていただいたり、お手伝いし て頂く事もあり、共に生活するという関係性が継続されていま す。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におか ず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本 人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 何もかも職員が対応することなく、ご家族だからできることを 理解して頂きながら、共に支える関係を大切にしています。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めてい る	(自己評価) 馴染みの関係を、今まで通り継続できるような支援を行って います。出来るだけ地域のお店を利用することで、地域との 関わりを大切に、地域行事の参加や、ボランティア等の訪 問も続けてもらっています。 (外部評価) 事業所では、毎年、利用者が年賀状を出せるよう支援を続 けておられる。近くのコンビニへ買い物によく出かけておら れ、店員の方と顔馴染みになっており、利用者の好みの品 を知ってもらえている。遠方のご家族から贈り物があると、お 礼の電話をかけ、ご本人からお礼を言えるよう支援されてい る。事業所の畑仕事は、利用者同士・利用者と職員の共通 の話題で、利用者がこれまでの経験を発揮できる場にもなっ ている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居者同士の関係を大切にし、職員は見守りながら時に仲介し、トラブルなく、互いに楽しく過ごせるように支援しています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約が終了しても、必要に応じて連絡をしたり、相談や支援をしたりしています。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 今までの生活の様子等をご家族にお伺いしてみたり、ご本人の意向や希望を尊重した取り組みが行えるよう努めています。 (外部評価) 入居時の情報以外に、「好きなこと・やれること」等の情報を「活動表」に記しておられる。又、「活動実施表」には、時系列で利用者の行なったことを記録するようになっており、個々の暮らしの傾向が分かりやすくなっている。居室に閉じこもりがちな利用者も、やるべき作業がある時には居間に出て来られることや、男性利用者も調理の下ごしらえを行なえること等、利用者のことについて気付くきっかけにもなっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 過去のサービス利用については、介護支援専門員より情報提供をしていただいたり、生活歴については、ご家族・ご本人に伺いながら、ホームに馴染みの物も持ち込めるような環境を整えています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) バイタル測定は毎日実施。日々の状況や様子については、主治医に報告をし、個人別に介護記録に記入しています。毎日の申し送りや、連絡ノートを活用し状態把握に努め、個々の有する力を維持・拡大出来るよう取り組んでいます。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			カンファレンスを実施し、入居者の状態把握や、ケア方針の見直し、統一ができるよう意見交換行っています。ご家族・主治医・看護師には、カンファレンス前に連絡をとり、カンファレンスに参加できない場合、面会の時等に合わせ状況をお伝えし、相談しながら共に取り組んでもらっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(外部評価)	
			ご家族には、事前に利用者の暮らしへの要望を聞き取り、3ヶ月ごとに利用者を交えて話し合い、利用者の希望や興味の持てることを探して、介護計画を立てておられる。身体機能の維持向上に向けてラジオ体操・棒体操・廊下3往復等、運動することを計画に採り入れているケースもある。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			ケアプランを介護記録に記載することで、日々の取組みに活かせるように取り組んでいます。	
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			病院受診や散髪、買い物や外出等、その時の状況に応じて柔軟に対応しています。出来る範囲でご家族にも協力をお願いしたり、相談しながら支援継続しています。	
		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			前年同様、ボランティアの受け入れ継続できています。今年度は、日本舞踊・コーラス・フォークダンス・体操等で楽しんで頂きました。民生委員の方々には、運営推進会議以外でもホームに立ち寄ってもらう事ができ、友人や地区の様子等の情報を交えて会話や交流してもらうことができ、ご家族の面会が少ない方でも孤立しないよう支援して頂きました。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) ご本人やご家族の希望を大切にしています。入居前にかかりつけ医について相談し、その時の状態に応じて、希望する病院へ受診できるように支援しています。	
			(外部評価) 入居前からのかかりつけ医で診てもらっていた方も、ご家族の負担や往診が受けられること等の理由もあって、現在は、事業所の協力医に変更されている。専門医への受診は、ご家族が担当されており、調査訪問当日、受診のため迎えに来られたご家族がおられた。ご家族は、職員からご本人の状態を聞き、通院後には、受診結果を報告されていた。ご家族が通院介助できない場合は、介護タクシーを利用して職員が付き添っておられる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 医療連携看護師の訪問が週1回あります。適宜状態の報告・相談を行い、体調管理と状態把握に努めています。毎日バイタル測定を実施し、必要な場合には医療連携看護師に連絡をし、状態報告等を行っています。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 入院されたら定期的に面会に行き、入居者が少しでも安心できるよう配慮しています。病院関係者と定期的に連絡を取り合い、治療後の早期退院に向けて相談しています。入退院時には、必ず情報交換を行っています。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居者の状態については、ご家族や主治医・医療連携看護師に報告・相談しています。病状や治療に関する事等は、主治医からご家族に説明をして頂き、方針については、ホームで出来る事への理解をして頂き、ご家族・ご本人の要望に沿えるよう取り組んでいます。	
			(外部評価) 医療連携や看取りについて指針を示しておられるが、事業所には、看取り支援についての情報が少ないこともあり、ご家族への説明についても難しさがあるようだ。今後は、法人の6事業所で話し合い、より詳細に説明できるよう、指針を見直す予定となっている。又、現在、利用者と個別に話し合う機会を設け、「先のことをどうしたいか」、意向を聴きとっておられるところである。現在は、「事業所で最期まで過ごしたい」と希望する利用者やご家族が複数おられる。	指針を見直すこの機会を捉えて、利用者やご家族の希望や不安ごと等を聞き取りながら、事業所でも重度化や看取り支援を行えるような体制作りに向けて取り組みをすすめていかれてほしい。ご家族もケアパートナーとして一緒に支援できるよう、取り組みをすすめていかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時の連絡先やマニュアルを作成しています。普通救命講習にも参加したり、研修等に参加し、緊急時に対応できるように取り組んでいます。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 半年に1回、防火訓練を実施しています。訓練の際には、消防署員に立ち会って頂き、ホームの現状報告や、指導を受けている。消防計画書や地震対策計画書はあるが、地域との協力体制作りには、まだまだ課題が残る状況です。 (外部評価) 防災訓練は夜間想定を基本とし、消防署・消防団の参加を得て行われている。訓練を実施して、通報から消防署の出勤までに時間がかかることや、2階から利用者を避難させる方法については、おんぶするのが一番早いということが分かったようだ。車に利用者に乗せることに時間がかかるため、地震発生時には、海と反対の方向に向かうことを職員で申し合わせされた。又、表のフェンスは、災害時を考慮して普段から施錠はしないこととなった。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 自分達の対応で、入居者を傷つけたり、役割を奪ってしまわないように、距離間に十分配慮し、気が付いたことは職員間で情報共有したり、注意し合うようにしています。また、自室で一人で過ごすことも大切に考え、一人自由な空間・時間づくりも行っています。 (外部評価) 職員は、地元の方言を交えた利用者とのコミュニケーションを大切にされている。昼食後は、居間でみんなと過ごす方、居室でしばらく休む方等、それぞれお好きな場所で過ごせるよう支援されている。利用者に対しての声かけやタイミング、職員同士の声の大きさ等については、利用者への配慮が必要と思われるような場面がみられる。	さらに、時には職員の利用者への対応や声かけ等について、利用者に十分配慮できているか、点検するような機会を作ってはどうか。ケアの質向上を目指して、具体的に確認し合うような機会を作ってはどうか。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ご本人の思いや、希望に沿えるように、良質なコミュニケーションを心がけ、その思いを上手にくみ取れるよう努めています。日常生活の中で、こちらから何かお願いするような場合は特に、ご本人の意思を確認し、自己決定して頂けるような支援を工夫しています。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) その日の状況に応じて臨機応変に対応しています。何事も 無理強いせず、形にとらわれず、入居者の体調や希望に合 わせ支援しています。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	(自己評価) それぞれが希望する店で散髪ができるよう、ご家族に協力し ていただいたり、起床時や外出の際には身嗜みやお洒落が できるように、好みの服を一緒に選んだり、鏡の前で整容し ています。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の形態は入居者の嚥下状態に合わせた物にしていま す。ミキサー食や水分にとろみを付け対応している方も、美 味しく食べれるよう工夫をしています。食事の準備や片付け は、出来る範囲で分担しながら行ってもらえています。 (外部評価) 利用者と職員で近くのAコープに食材の買い出しに行かれ、 食事を作っておられる。調査訪問時、利用者が「自分のため にはしないけどね」と言いながら、すり鉢で冷汁を作ってくだ さっていた。又、男性利用者にも、魚を下ろしたり材料を混 ぜる等、できることを行なっていただけるよう場面を作ってお られ、「助かります」「ありがとうございます」と感謝の気持ちを 伝えておられた。さらに、職員に確認しながら、おかずや湯 呑み・箸をワゴンで配ってくださる利用者もみられた。利用者 それぞれの嚥下状態に合わせた食事を用意され、職員は、 できる限りご自分の力で口に運べるように見守り、できないと ころをサポートされていた。食事が終わると、利用者と職員が 一緒に台所で片付けをされていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価) 三度の食事の際には必ず汁物を付けています。 その他に、10時・15時・19時と水分補給の時間を取ってい ます。状態に合わせ、チェック表を使用したり、一日の摂取 量を確保できるよう支援しています。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価) 自分で出来るところまでは自身で行ってもらい、出来ていな い部分については介助し、清潔保持に努めています。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
			可能な限りトイレで排泄出来るよう支援しています。一人一人の排泄パターンを把握し、オムツの使用も必要最小限とし、状態の観察も行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(外部評価)	
			職員は、利用者との信頼関係作りに努めておられ、利用者が職員にトイレに行きたいことを言い出しやすいよう取り組まれている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
			入浴日時・回数等、ご本人の希望に沿えるよう支援しています。最低でも週に2～3回は入浴できるようにしています。皮膚の状態や体調により、部分浴や清拭に変更する等、個々の状態に応じて対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(外部評価)	
			おおよそ2日に1回、入浴できるよう支援されている。脱衣に抵抗がある利用者もおられるが、言葉かけ等に工夫して支援されている。むらさきやピンク色の入浴剤は、特別感や驚きもあり、喜ばれるようだ。視力が低下した利用者の方も、入浴剤の香りを楽しんでおられる。	
			(自己評価)	
			体調や状況に合わせて、適宜休息をとってもらっています。入眠・睡眠時間は個々に合わせ、室温にも配慮し、快適に過ごせるよう支援しています。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬に関する情報は、お薬情報で確認をしています。薬の変更があった場合には、日誌等で申し送り、その後の状態についても観察を行っています。誤薬防止の為、内服前に名前と日付を確認しています。飲みやすいよう薬の形状等の変更は、主治医に相談し工夫をしています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日々の生活の中で、情報を集めて、出来る事を見つけ、それを維持・拡大出来るよう支援をしています。一緒に畑で作業をしたり、季節の食材を食卓に取り入れるように工夫しています。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 月に1度は外出レクの計画を立てたり、個別的に行きたい場所へ外出できるように支援しています。自宅に戻りたい方は、ご家族の協力を得て実現できています。 (外部評価) 職員と一緒に、買い物に行かれたり、道の駅、温泉の足湯、納涼祭、バザー、花見等、月に1回は全員で外出する計画を立て、職員は、トイレの下見等して準備をされている。帰宅や墓参を希望される利用者には、ご家族の協力を得て実現されている。利用者がこれまで桜のお花見を楽しんでいた場所で、お花見を続けられるよう支援されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 所持金については、ご本人・ご家族の希望に沿って対応しています。ご自分で管理されている方、ホームでお預かりしている方と様々ですが、いつでも使用できるようにしています。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望がある場合には、ご家族や友人等へ電話や手紙のやり取りが出来るよう支援をしています。年賀状を出される方もおられ、これまでされてきたことが継続出来るよう支援しています。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共用の空間には、出来るだけ季節の飾りや花々を飾り、居心地良く過ごせる工夫をしています。会話のきっかけづくりに写真も多く掲示するようにしています。	
			(外部評価) 事業所は駐車場が広く、利用者が外でも過ごせるようにベンチを置いておられる。地域の夏祭り時には花火がよく見えるようだ。建物の裏の畑には夏野菜が実っていた。玄関には、大きなアガパンサスの花を花瓶に生けておられ、甕にはメダカを飼っておられる。居間には、利用者の願い事を書いた短冊が貼ってあり、ソファでは、利用者が「これ誰のやろ」と確認しながら洗濯物をたたんでおられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 入居者同士で思い思いに過ごせるように工夫しています。屋外にもベンチを設置して、散歩の際の休憩場所としても活用しています。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室はご本人が過ごしやすいうように、使い慣れたもの、好みのものを自由に持ち込めるようになっています。食器や机など、その時の状況に応じて対応しています。又、防災対策として、ホーム内の安全性についても見直しをしているところです。	
			(外部評価) 大きな時計や洋服かけ等、それぞれに持ち込まれており、災害訓練の後、危険と思われる物の配置等、整理をされたところである。利用者の状態によっては、居室の入り口ドアに大きく名前を書いて吊るし、分かるようにされている。ご家族の写真を大きくして部屋中に飾っておられる方は、ひ孫の写真を見ながら、「次来た時は走って来るかな」と楽しみにされていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 状態にあわせて対応しています。説明をする場合には、分かりやすい言葉(方言)を使用し、一緒に行動したり、見守りをしながら、混乱や失敗を防ぎ、出来る限り自立した生活が送れるように工夫しています。また、風鈴や鈴を利用し、夜間の転倒防止策としています。毎日の生活に、体操や散歩を取り入れて、筋力低下防止にも努めています。	